

# 適切な距離を開けることで 一つの絵になる仕掛け

近畿大学附属和歌山高等学校 益田玲奈、木野佑香、  
吉田沙藍、栗本明依、室谷芽衣

## •背景

教室の窓が開けられておらず、また開いていても閉められていないことに着目した。冬の寒さがその原因となっていると考え、窓を継続して開けておくにはどういう工夫ができるか考えた。



Before



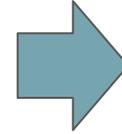
After

## •実験内容

二つの絵が重なることでまた一つの絵になり、かつ窓を適切な距離で開けることができる仕掛けを教室の窓で実施した前後での窓を開け閉めした回数の変化

### 仕掛けを実施後の実験結果

	窓を閉じた回数
仕掛けなし	3回



	窓を閉じた回数
1日目	0回
2日目	1回
3日目	0回
4日目	0回

## •振り返り

この仕掛けをしたことにより、窓が開けられている状態が長く続き、窓を閉めようという行為がほとんど見られなくなった。反省点は仕掛け自体が小さかったため、仕掛けに気づいてもらえなかった点。そして仕掛けのデザインが比較的女子向けであったため、男子にはあまり興味を持ってもらえなかった点が挙げられる。